

【特別第1分科会 「PTAのあり方」】

出席及び報告者：八戸市連合 PTA 会長 田畑芳幸

① 会場・規模 :奈良県橿原市小房町 11-5 「ロマンピアホール」 出席者数：約 200 名

② 日程 令和8年8月21日（金）

13:00～13:30 受付

13:30～13:40 開会行事

13:40～14:40 基調講演

14:40～14:55 実践発表

14:55～15:10 舞台転換・休憩

15:10～16:20 パネルディスカッション

16:20～16:30 閉会行事

16:30 終了

③ 内容 ※講師、テーマなどについては別紙本大会資料をご参照ください。

1、第一部 基調講演 概要要約

講師は自らも PTA 活動に関わった経験から、「PTA は必要」という内容だった。元々は PTA に対して否定的・マイナスの考えをもっていたが、様々関りをもっていく中で考え方が変わったこと、活動をしていく中で、単 P、郡市連 P、県 P それぞれの役割がなんとなくわかってきたというお話から、子どもたちのより良い成長へのヒントとなることもお話していた。講演の最初に「PTA は必要。無くなったら子どもたちの声を誰が代弁するの?」というワードを軸にお話を展開していた。

1-2 講演内容/印象に残ったこと。（3 点～5 点）

・学校や先生の負担

先生の負担が非常に大きく、新卒 2 年以内に辞めてしまう先生が多い。1 年目から担任をもつ、専門外の部活の負担、外国と比べ仕事量が多い、保護者のハラスメント等様々な要因があり、先生の精神疾患も増加傾向にある。仕事量に関しての事例として、金銭的に余裕がある自治体は業務の外注をしやすいと比較的負担軽減をしやすいが、ほとんどの自治体は余裕がないためそうもいかない。同じく教育を受けなければならないのに、そういった格差が現実的にあることがわかった。

・PTA はどういう組織か、何ができるか

PTA の組織としては「郡市 P 連」の関わりが重要。日本は世界と比較して教育にお金（予算）をかけていない（世界 135 位）。これは郡市連 P からの要望が弱いのが原因でもある。一例として、小中学校のトイレがまだ和式だったり汚かったりする。学校でトイレができないという子どももいて不登校になることもある。経年劣化のため掃除をしてきれいになるというレベルではない。でも市役所のトイレはきれい。お金をかけるところが違う。

県 P は日 P からの情報の受け皿や、他の自治体との比較から自分たちの改善につなげる。例えばスポーツ推薦の

一例で、民間のクラブからは高校に推薦できないが公立中学の部活所属は推薦可能などの不公平。そういったところに声をあげる。日 P は国に影響を及ぼす大きな世論形成ができる組織。現場の声を国に届けることができる組織。PTA というのは子どもたちや声を代弁し世の中に届けることができるたった一つの組織。それを無くすとかはありえない。

- ・子どもたちのより良い成長へのヒント

離島の子どもたちは不登校が少ない。都会のような快適さ、金銭的余裕はないかもしれないが、ワンオペじゃない子育て、地域みんなで育てる風潮が大きいと感じる。例えば地域のイベントや行事に子どもたちが参加する、子どもたちにも役割を与える、大人からの依頼をやり遂げる達成感から自己肯定感が高まる。地域のめんどくさい大人とも「関わらなければいけない」理不尽への免疫が強くなる。どれだけ多様な人と触れ合うかが大事で、そこを親（大人）がやらないといけな

1-3 まとめ

・「PTA は子どもたちの声を代弁できるたった一つの組織」というワードが全てと思った。不要ではなく、どうやって子どもたちの環境をより良くしていけるか。そこに私達大人が知恵をしぼり行動していくことが重要。PTA の組織は郡市 P 連の働きかけが重要という話は自身の行動を振り返るともう少しやれることがあるのではと身が引き締まった。

「子どもたちのため」を大義名分にして子どもたちを囲い込んだりするのではなく、子どもたちに様々な経験させる機会を大人がつくり、たくさんの大人で育てていく。それが「子どもたちを守る」ことだと思った。そこには地域だけではなく、先生も交えることができればより大人同士の距離感が縮まり、先生と保護者の相互理解も深まっていくのではないかと思った。

「PTA」はこういう環境作りをしていく組織であり、その和が大事なことだと思う。行動あるのみだし、PTA の必要性を改めて実感した。

2、第二部 パネルディスカッション 概要要約

ファシリテーターとパネリストの方たちとのディスカッションで、「絶対に PTA は必要」というテーマで討論が行われた。パネリストには開催市の檀原市長、議長、教育長、前連合 PTA 会長、佐賀県前 PTA 会長などがおり、檀原市の現状を行政、PTA の目線でお話があり、また他県の前 PTA 会長も交えてのディスカッションとなった。

2-2 講演内容/印象に残ったこと。（3 点～5 点）

・基調講演で「郡市 P 連がもっと働きかける」という話題があったためか、どういったことができるかという話を行政・PTA の立場で意見交換をしていた。

・要望を出す際には誰に、どういう書式や様式、内容は？という具体的な話になり、聴衆も興味のある話題だと思った。市議会議長から「市長あて、教育長あて、議長あての 3 者宛ての要望書（宛先に応じて多少表現を変える）と予算書を出す」とよい。負担だと思うのでそこまでなくてもいいが、PTA 会員からの聞き取りアンケートのような裏付けがあればなお良い。」というアドバイスがあった。これは地方自治法という法律に則った手続きなので、どこでも同じく対応できるということだった。

- ・他の連合 PTA では、教育委員会との懇談会のような意見交換を行う場がない団体もあることを知った。

2-3 まとめ

八戸市では教育委員会との懇談会を毎年行っているため当たり前のことと思っていたが、そうではない地域がたくさんあることに驚いた。もしかしたらそういう関わりの薄さが、PTA やっていても何も変わらない、意味がない→不要論の一端かな？と思った。しかしながら八戸市としても解決しなければならない問題・課題があり、単Pとしても連合PTAとしてももう少しやれること、工夫できることがあると感じた。

具体的に何かを改善したい場合の行政への働きかけは参考になった。確か市議会議長が、自身にお子さんがいないため、PTA や教育現場の実態を知らないことが多く、この大会で様々な情報を知った。という言葉もあり、学校や保護者、子どもたちの声は誰かが働きかけないと届かないという現実を知った。その誰かが「PTA」しかないため、私たちの役割は非常に重要で、必要とされ続けるよう活動をしていきたいと思った。

個人的にはPTAは必要と考えていたが、より確信をもってそう思えることができた分科会だった。今後大事なことは知識として分かったことを実践することだと思った。